

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677100168
法人名	有減会社健やかクラブ
事業所名	グループホーム元気
所在地	鹿児島県鹿屋市串良町細山田5340-2 (電話) 0994-31-0161
自己評価作成日	令和4年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地を活用して、園芸療法を取り入れて共に作業をしていたが入居者の方々が高齢になったり、車椅子使用の方が多くなり、最近では共に作業が出来なくなりました。職員が中心となり季節の野菜を栽培し、毎食の食卓に活用している。花々の種まきはお手伝いをもらいながら、種まきから育苗まで楽しんでいる。さらに地域の方々におすそ分けが出来、喜んで頂いている。

- ・個々の生活レベルに焦点を置き、強制する事無く我が家のごとくゆっくりと生活できている。
- ・3名の介護福祉士を中心に研修等を実施している。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「【心こそ大切なれ】を原点に、貴方が貴方らしく生きるために真心を持って共生・共働できる介護を提供します。さらに、地域に根差し、地域と共に生活していきます。」を理念に掲げ、玄関とフロアの目に付く場所に掲示すると共に、毎朝の申し送り時の唱和や毎月の職員会議で理念を振り返る機会を設け、理念の共有と実践につなげている。

朝、利用者に食べたいものはないか尋ね、昼食や夕食で提供するなど、家庭的な雰囲気大切にしている。また、ホットプレートを使った調理や味見等に利用者も参加し、利用者と職員が同じメニューと一緒に食べている。食事が楽しい時間になるよう、また、季節を感じてもらえるよう、おせち料理やひな祭りメニュー、お花見弁当作りやクリスマスメニュー等、季節の行事メニューを工夫し提供している。菜園では玉ねぎや白菜、大根、トマトやきゅうり等、季節の野菜を育て収穫したものを食材で使うことで話題作りにもつながっている。

人権の尊重やプライバシーに関する研修を年に数回実施すると共に、個々の人間性を尊重したケアや関係性が築けるよう申し送り時等、随時職員間で意見を交わしている。また、トイレ誘導の際は羞恥心に配慮して、さり気なく耳元で声を掛けたり、利用者のしたいことや興味のあること、各自の生き方を第一に考えた支援を行うなど、無理に職員の意見を押し付けない自由な暮らしの支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時にスタッフで唱和し確認し自覚している。更に毎月のスタッフ会議でも理念の再確認をしている。	「心こそ大切なれ」を理念の中核に据え、ケアを行う上での心の置き所とすると共に、毎朝の唱和や毎月の職員会議で理念の共有と意識付けを図り、日々の支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ここ2年間は、コロナ感染拡大に伴い、ホームでの行事参加の呼びかけは控えている。	以前は地域の花見や運動会に参加したり、保育園児とも交流していたが、コロナ禍の現在、交流を控えている。コロナを持ち込まないようにと外部との交流は、散歩時の挨拶や会話にとどめている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域住民の方々がいつでも立ち寄れるように普段から声掛けしていたが、コロナ感染症拡大に伴いここ2年間は実施できなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議もコロナの影響で書面開催となっている。行事实施やサービス状況説明など報告をし、各委員の意見等お聞きするが書面開催の中では中々意見が出て来ないのが実情です。	コロナ感染症対策として外部者参加の会議は実施せず、書面形式に代えている。事前に会議内容をメンバーに渡して意見を求め、それらを開催報告書にまとめ、メンバーや行政に提出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>コロナの影響で文書での参加となった。施設長や管理者が行政担当者と電話での情報交換及び各指導を受けている。</p>	<p>書類提出や相談事がある時等に行政に出向いていたが、現在はコロナ禍のため相談事は電話に代えることが多い。また、日頃から福祉事務所や包括支援センターと連携を図り、運営やサービスに反映させている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止委員会及び適正化委員会を同時に開催し、期間を設定・経過記録を記入している。日中は玄関に鍵を掛けず、見守り等で利用者の安心安全に努めている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会及び適正化委員会を運営推進会議と併せて定期的実施している。近隣とは良好な関係を築いているため事業所の理解があり、見守りや声掛けをしてもらえる関係を築いている。身体拘束に関する研修会を開催し、言葉による拘束を含め、拘束しないケアについて確認し合っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>行政等の資料及び指導の基、毎月の職員会議で研修会等実施している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>コロナの影響で研修会等の参加は出来ていないが職員会議等で勉強会を実施した。鹿屋市の社会福祉協議会とも連携が取れるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書にて運営方針等丁寧に説明している。退所持は各関係機関と連携しご家族が安心できるようにサポートしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、苦情受付窓口を設置し、いつでも対応できる体制を整えている。また、随時誰にでも意見が言えるような雰囲気作りに勤めている。	コロナ禍で家族会を開催できていないが、請求書や「元気便り」を送付する中で、意見や要望、感想等を伺っている。お便りの写真を希望された場合は、拡大してラミネート加工したものを家族に渡している。コロナ禍のため面会は、窓越しや玄関で換気や距離を保ちながら行っている	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り張を活用したり、随時開催の職員会議の中で、意見等を聞き運営に反映している。	申し送り時や毎月の職員会議等で職員の意見が出されるほか、休憩時間等、日常的な会話でも自由に意見を出してもらっている。特に個別面談は実施していないが、状況に応じて施設長や理事長が相談を受け、助言している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を取り入れ働きやすい環境を作っている。また、なんでも相談できる環境を作っている。資格取得への援助や資格手当を創設し、働く意欲を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ感染症拡大に伴い、外部研修会等開催出来なかったが、職員会議で勉強会をしている。また、個々の相談にも随時応じ向上に勤めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各種の経営者会議や交流等もコロナの影響で開催出来なかったが、随時電話等で状況確認しながら対応した。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面接時に丁寧な言葉遣いと態度で接し、不安感を与えないようにしている。出来る限り本人の要望を受け入れられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方が安心していただくように解りやすく説明している。丁寧な言葉遣いと態度で接しご家族の要望を受け入れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の情報を収集し必要に応じて、他の関係機関と連携を図ってサービス利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し強制する事無くコミュニケーションに心がけ、趣味・レクレーションや行事等を共に協力し助け合う事に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染症拡大に伴い、外出外泊は出来なかったが通院は職員とご家族共に付き添いで参加していただいた。面会等も制限された為、電話等を利用し安心していただいた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出はコロナ感染の影響で自粛。電話等で近況報告等実施した。	コロナ前は友人や知人の訪問が多かったが、現在は訪問に代わり電話でのやり取りが増えている。コロナ収束後は馴染みの美容室や墓参りに出かけたり、家族との交流の再開を心待ちにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に洗濯物を干したり、畳んだり又、レクへの参加を呼びかけていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族へ電話したり季節のハガキやホーム便り等送付して関係を維持している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や、日ごろのコミュニケーションの中で、希望する事を聞いたりしている。(食べたい物・好きな物・したいこと等)	利用者の思いや意向は日常の中の見守りや声掛けにより、何をしたいかを汲み取るようにすると共に、新規入居者の方には日々の様子観察を丁寧に行うことで思いの把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係機関からの基本情報を基に現在までの生活暦等を重視。不明な点や不足する点についてはご家族に電話等で確認し、サービス利用の経過に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や総合支援経過表、申し送り張に記入している。職員会議や毎日の申し送り緊急のミーティング等実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに基づき具体的なケアプランを作成している。日々のケアの中で忘れる事が無いように、総合支援計画表に記載し必要に応じて協議しよりよいケアが出来るようにしている。	本人からは日常の様子や会話から、家族からは面会時や電話等により意向を尋ね、ケアプラン1表に落とし込んでいる。また、主治医の意見や「総合支援計画・経過表」、定期カンファレンスやモニタリング評価も参考にしながらケアプランを作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を毎日記録し、更に総合支援計画表に記録し活用している。全員が常に情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族の要望を受け入れてGHの特性を活かし一人一人が自然な形で、持っている力を発揮して暮らしていけるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで手品や踊り・楽器演奏など来て頂いていたが、昨年からのコロナの影響で職員中心の季節に応じた行事ごとのレクに重点を置いた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の医療連携を確保し、月2回の訪問診療と居宅療養指導を受けている。他科の受診が必要な時は紹介状を貰い、職員やご家族の協力をいただきながら支援している。	家族の事情や訪問による安心から現在は入居者全員が協力医療機関によるかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。受診の内容や薬の変更等については、申し送りノートに記録し情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護兼看護師が2名いる為、毎日のバイタルチェックや介護記録を元に、異常があればその都度Drと連絡を取りDrの指示を仰ぐ。必要であれば往診や病院受診をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>提携医療機関を確保しMNWと連絡を取り、状況確認等蜜に連携している。より良い関係作りに心がけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>提携医療機関のDr及びご家族等と普段から話し合い全員で方針を共有している。これまでに看取りの経験も少なくない。</p>	<p>入居時に重度化や看取りについての説明を行うと共に、入居後も状態変化時等、状況に合わせて、都度支援方法について説明している。看取りに関する指針は準備していないが看取りまで対応しており、これまでに多くの看取り支援を実施してきている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>介護職員12人中10名が普通救命講習受講し令和元年度から「市民救命士のいる事業所」に認定されている。更に、緊急時の情報提供カードを常備している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアルを作成して、周知徹底している。消防、地域消防団長、地域住民にも協力頂き、年2回の避難訓練を実施し、夜間及び日勤の模擬訓練を行っている。	夜間想定を含む災害訓練を年2回実施すると共に、定期的に日勤者がメインとなって、避難経路や通報手順の確認を行っている。玄関に非常時倉庫を準備して飲料水や食料を5日分程度備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	レク以外は他人との関わりが苦手な人、口下手な人など無理強いないせず、ホールや居室で過ごしていただいている。随時スタッフが声掛けしている。	プライバシーや守秘義務等に関する研修会を年に数回実施し、個々の人間性を尊重したケアにつなげられるよう話し合っている。利用者のしたいことや生き方を第一に考え、無理強いのない自由な暮らしを支援している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	塗り絵やパズル等レクでの出来事に声掛けして、出来た事はほめてあげたり、一緒に手伝ったり支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に園内の散歩やフロアでのくつろぎ等様々なスタイルが保てるように一人一人のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	意思表示の出来る方は更衣や衣類を自分で選んでもらっている。又、起床時は鏡を見ながら整髪を行い、カットや散髪は訪問美容師に依頼している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に食べ物の好みや食べたい物を聞いたしている。料理を作ったり、準備や片付けの出来る方は手伝ってもらっている。コロナで外食が出来ない分季節に合わせた料理を提供している	特に決められた献立表はなく冷蔵庫の中身を見てから当日のメニューを決めるため、朝利用者に食べたいものを尋ね、昼食や夕食に反映させることができる。また、季節の行事に合わせたメニューにも心を込めている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の1日の水分摂取量の記録。1日の食事のメニューの記録等。栄養バランスが偏らないように心がけている。糖尿病の方の薬を減らす事が出来たケースも数件ある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時を始め毎食後の歯磨き・うがいの励行。毎食前のお茶でのうがい等の実施。夕食後は義歯洗浄剤を用いて消毒している。また、訪問歯科医のアドバイスを受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自の排泄時間を記録し時間で声掛け誘導にてトイレ対応に勤めている。回数から読み取れる事がある場合には、かかりつけ医のDrに指示を仰ぎ病院受診等柔軟に対応している。	「総合支援計画・経過表」に排泄チェック項目を設け、ケアプランやバイタルと共に管理している。個々の排泄状況に応じて布パンツやリハビリパンツ、パットの工夫により、排泄用具に頼らない排泄方法を検討し支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる事で認知症の症状の悪化を職員が理解している。水分補給や植物繊維食品を食事に取り入れたり、適度な運動を行ったり、服薬等を用いて排便コントロールに勤めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を基本とし、一人一人のタイミングを見て声掛けし入浴剤等で入浴の支援をしている。寒い日は危険が伴う為室内外浴槽内温度に注意し、入浴後は水分補給をしている。	体力等を考慮して夏は週3回、冬は週2回の入浴日を設け、特に冬は浴室と脱衣場との温度差に気を配りながら入浴を支援している。また、保湿クリームや塗布等、入浴後の皮膚ケアや水分補給にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の生活状況、生活習慣を把握し、ホールや居室でくつろいでいただいたり、夜間帯に置いては眠剤が必要な方には用いて安眠していただく事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報をファイルして1回分づつ薬局にて分包して頂き、服薬時には氏名・日付の確認、病状の変化確認に勤めている。薬に関する勉強会を実施。以前と薬の量も減少した例もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除時、歩行可能な方には自分の居室の掃除をしたり、洗濯物を畳んだりとそれぞれの役割で楽しくされている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは散歩や短時間ドライブ、買い物同行等実施していたが、コロナの影響で今まで出来ていた事が出来なくなった。	以前は利用者が自分で洋服を選ぶため買い物に出かけたり、外食に出かけていたが、コロナ禍のため現在は控えている。ただ、屋内ばかりではストレスにつながるため、ウッドデッキで日向ぼっこをしたり、昼食やお茶を楽しむ機会を作るなど、気分転換につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	ほとんどの方が現金は所持していない。必要に応じて使う時はホームで立て替えて使えるように支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	個々に応じて自由に電話できる体制を取っている。職員が協力して年賀状や暑中見舞等家族や友人に出せるように支援している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	四季の変わり目には、貼り絵、雛飾り、こいのぼり、武者人形等季節を視覚、味覚で感じ楽しまれている。また、室温が一定に保たれるように冷暖房を活用している。掃除も朝と昼行う事でトイレ等も清潔に保たれている。	節分やひな祭り等、季節毎の作品を利用者と職員で作成しフロア内に掲示すると共に、節分の豆まき等の行事をフロアで楽しく行っている。畳室では洗濯物を利用者等で会話を楽しみながら干したり、畳むなどして過ごしている。毎日徹底し感染症対策のための換気や消毒にも気を配り日常生活を送っている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	居室は個室であり、ホール内にソファを置いたり畳の間も設けてある。入居者同士自由に過ごせるようにしてある。テレビは自由に見れるようにしてある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者一人一人が使い慣れた生活用品やテレビ、仏壇、位牌等持ち込まれている。火を扱う物は原則禁止としている。又、部屋に畳を敷くこともある。</p>	<p>エアコンや電動ベッド、タンス、クローゼットや布団等が備え付けられ、テレビや位牌等、自宅から大切なものを持ち込み、居心地よく過ごせるよう配置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立とは何かを協議したりして、生活の質を高めている。ホール内で車椅子でも利用できるようにスペースを広くしている。ホール内に手すりを設置し歩行が不安定な方も自立して生活が遅れるようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない (コロナの影響)

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない (コロナの影響)
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない